【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第６部門第２区分
【発行日】令和3年12月23日(2021.12.23)

【公開番号】特開2020-64297(P2020-64297A)
【公開日】令和2年4月23日(2020.4.23)
【年通号数】公開・登録公報2020-016
【出願番号】特願2019-183682(P2019-183682)
【国際特許分類】
Ｇ０２Ｂ　5/30　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　51/50　(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　33/14　(2006.01)
Ｈ０５Ｂ　33/02　(2006.01)
Ｈ０１Ｌ　27/32　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/1335　(2006.01)
Ｇ０２Ｆ　1/13363　(2006.01)
Ｇ０９Ｆ　9/30　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｇ０２Ｂ　5/30
Ｈ０５Ｂ　33/14　Ａ
Ｈ０５Ｂ　33/14　Ｚ
Ｈ０５Ｂ　33/02
Ｈ０１Ｌ　27/32
Ｇ０２Ｆ　1/1335　５１０
Ｇ０２Ｆ　1/13363
Ｇ０９Ｆ　9/30　３４９Ｅ

【手続補正書】
【提出日】令和3年11月12日(2021.11.12)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
二色性物質を含むポリビニルアルコール系樹脂フィルムで構成され、その厚みが８μｍ以下であり、単体透過率が４６％以上であり、偏光度が９２％以上である偏光膜と該偏光膜の少なくとも一方の側に保護層とを含む偏光板と、Ｒｅ（５５０）が１００ｎｍ～１９０ｎｍであり、Ｒｅ（４５０）／Ｒｅ（５５０）が０．８以上１未満である位相差層と、を有する位相差層付偏光板の製造方法であって、
長尺状の熱可塑性樹脂基材の片側に、ヨウ化物または塩化ナトリウムとポリビニルアルコール系樹脂とを含むポリビニルアルコール系樹脂層を形成して積層体とすること、および、該積層体に、空中補助延伸処理と、染色処理と、水中延伸処理と、長手方向に搬送しながら加熱することにより幅方向に２％以上収縮させる乾燥収縮処理と、をこの順に施して該偏光膜を得ることを含み、
該位相差層の遅相軸と該偏光膜の吸収軸とのなす角度が４０°～５０°である、
位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項２】
前記保護層が、トリアセチルセルロース系樹脂フィルムから構成される、請求項１に記

載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項３】
前記位相差層が、ポリカーボネート系樹脂フィルムから構成される請求項１または２に記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項４】
前記偏光膜の５０ｃｍ^{2}の領域内における単体透過率の最大値と最小値との差が０．３％以下である、請求項１から３のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項５】
前記偏光膜の幅が１０００ｍｍ以上であり、幅方向に沿った位置における単体透過率の最大値と最小値との差が０．７％以下である、請求項１から４のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項６】
前記偏光膜の単体透過率が４８％以下であり、偏光度が９７％以下である、請求項１から５のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項７】
前記位相差層付偏光板が、前記位相差層の外側に別の位相差層をさらに有する位相差層付偏光板であって、
前記位相差層の外側に該別の位相差層を設けることを含み、
該別の位相差層の屈折率特性がｎｚ＞ｎｘ＝ｎｙの関係を示す、請求項１から６のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項８】
前記位相差層付偏光板が、前記位相差層の外側に導電層または導電層付等方性基材をさらに有する位相差層付偏光板であって、
前記位相差層の外側に該導電層または該導電層付等方性基材を設けることを含む、請求項１から７のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項９】
前記位相差層付偏光板が、長尺状であり、
長尺方向に吸収軸を有する長尺状の偏光膜と、長尺方向に対して４０°～５０°の角度をなす方向に遅相軸を有する斜め延伸フィルムである長尺状の位相差層とをロールトゥロールで積層することを含む、
請求項１から８のいずれかに記載の位相差層付偏光板の製造方法。
【請求項１０】
前記長尺状の位相差層付偏光板をロール状に巻回することを含む、請求項９に記載の位相差層付偏光板の製造方法。